

The Danube Quarterly

ドナウ通信



ハンガリー日本人会会報 / The Japanese Community Bulletin

目次

ご挨拶	稲川 照芳	1
日本人学校設立準備委員会報告	森田 喜信	2
補習校文化祭スピーチコンクール		
最優秀賞「私たちは、幸せ」	村松 佳奈	4
優秀賞「私の前に続く道」	上坂 桃	6
新補習校説明会開催のお知らせ	新補習校準備委員会	7
提言「数学と数学教育を考える」	盛田 常夫	8
随想「骨折治療日記」	飯尾 欽哉	14
「小春日和」	竹内 勝則	20
日帰りできるスキー場情報		22
日本人会からの報告	酒井由美子	26

ご挨拶

駐ハンガリー大使

稲川 照芳

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年五月にはついにハンガリーのEU加盟が実現致しました。これによってハンガリーは欧州への復帰という長年の夢を叶え、統合欧州の一員として新たに国際舞台での存在感を強めることになりました。中東欧諸国など十カ国のEU加盟は、第二次世界大戦以降の欧州の分断に最終的な終止符を打つだけでなく、欧州の中でもまさに鉄のカーテンが引き裂いた中欧の復活を意味し、中欧地域が経済的、文化的に新たな活力を得て復活することも意味します。

ハンガリーの欧州への復帰、中欧の復活だけではありません。さらに東のルーマニア、ウクライナ、または南の

旧ユーゴ諸国に向かって進行する欧州統合の動きの中で、ハンガリーはまさにその最前線となり、今後外国企業などがこれら南東欧州地域へ向け経済提携を進める上での拠点国ともなったのです。このように、今後のハンガリーが持つ地政学的重要性は益々高まっていくことが予想されます。

こうした中、日本とハンガリーの関係のためにこれまで力を尽くしてこられた在留邦人の方々による経済・文化活動が、新しい欧州の構図の中で、更にその意義を強めていくことになります。企業活動、留学、教育、文化交流をはじめ、皆様の各分野でのご活動が、日本とハンガリーの二国間関係だけではなく、新しい国際関係の中の重要な貢献となってくるのです。

いよいよ本年四月には長年の夢であった日本人学校が正式に開校し、日本語での全日制授業が開始されます。これも一年半に及ぶ関係各位のご尽力により実現に至りました。日本人学

校の開校によって、ご子弟の方々の教育条件が向上し、これまで以上に関係者の皆様のハンガリーでの滞在が快適かつ円滑なものとなることを願っております。

さらに本年は日・EU市民交流年となっております。一年間にわたり、文化を中心に様々な分野で、日本とEU、日本とハンガリーの関係を草の根市民レベルで活性化しようというのがその狙いです。これまでも折に触れ皆様からのご協力を仰いで参りましたが、日本人とハンガリー人による文化交流行事、姉妹都市交流、草の根交流及び見本市などの経済交流などで皆様からのアイディアをお寄せ頂きたく、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎えるにあたり、皆様のご健勝と発展、そして本年の平和を願いご挨拶とさせていただきます。

平成一七年 元旦

日本人学校設立準備委員会報告

委員長 森田 喜信

新年明けましておめでとうございます。本年は四月に日本人学校開校を迎えるという、ハンガリーにおける日本人にとって画期的な年であり、この紙面をお借りし、ハンガリー一二区を始め日本人学校設立にご理解を頂いた多くの方々、日本国大使館、日本人会、商工部会参加企業、補習校関係者、ボランティアで働いて頂きました設立準備委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

昨年（二〇〇四年）の設立準備委員会の主な活動は以下のとおり。

一・設立計画書の提出

五月に日本政府（文部科学省、外務省）に対し、日本人学校の児童・生徒・教員数、授業内容、校則、校舎設備、備品、運営組織（規約）、収

支予算（三年間）等に関する計画書を提出した。

二・校舎賃貸契約書

二〇〇三年から交渉が始まった校舎の賃貸契約が七月二二日に仮調印、一二月一四日に正式調印された。物件は一二区の所有するヴィラニョシユ小学校の別館校舎、賃貸期間は一〇年の契約。調印式には、一二区長、稲川大使、野田日本人学校理事長を始め、多くの関係者が参加した。

三・校舎の改築工事

ヴィラニョシユ小学校の夏休みの期間を利用し、七月二六日より別館校舎の改築工事が開始され、主要部分分は九月二六日までに終了した。工事費は校舎前のバスケットコート改修費（二〇〇五年実施予定）も含め、総額四一三五万円となった。監視カメラによるセキュリティ対策も施されている。

四・校具・備品の購入

学校運営に関する校具・備品を検

討し、補習校の転居に際し、机、椅子等一部調達を実施した。総額は一五二五万円の予定。

五・現地採用教員、事務職員の公募

現地採用教員の公募を七月に発表、九月一〇日に締め切った。書類選考、面接については一〇月に日本人学校運営理事会が実施した。事務職員の公募は一月に行う。

以上が主な活動ですが、これ以外に、アンケート調査、スクールバスの検討、補習校の検討・説明会、日本人学校運営理事会の設置、指定寄付金募集の検討等も行いました。

四月の開校までには、海外子女教育財団への指定寄付金の申請、ハンガリー教育省へ認可申請、校具・備品の調達、教員就業規則の作成、ヴィラニョシユ小学校との体育館等共同使用の合意、警備会社との契約等の課題もあり、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りたいと思います。

日本人学校設立大日程

申請/承認済み★、申請/承認予定☆、報告済み▲、報告予定△

2004年11月1日 設立準備委員会

項目	内容	担当		'03/7	'03/8	'03/9	'03/10	'03/11	'03/12	'04/1	'04/2	'04/3	'04/4	'04/5	'04/6	'04/7	'04/8	'04/9	'04/10	'04/11	'04/12	'05/1	'05/2	'05/3	'05/4	'05/5	'05/6	'05/7	'05/8																				
大日程				★準備委員会発足		★商工会での承認(日本人学校化、補修校移転)																←		→		補習校閉校☆				☆日本人学校開校(授業開始)																			
				★設立趣意書提出		★日本人会総会での承認(同上)																★設立計画書提出		校舎改修 ★補習校移転(ヴィラニョシュヘ)														☆追加教員派遣(3～4名程度)											
						★運営理事会発足																★賃貸借契約仮調印				★賃貸借契約正式調印																							
						補習校KHT名称・社長・住所変更																→★完了 △日本人会総会での報告(05年4月開校)																											
対日本政府 :文部科学省 :外務省	設立趣意書の提出(仮申請) 設立計画書の提出(本申請) 在外教育施設の認定 ＜校長・教員派遣日程＞	山崎	事務員	★7/31完了																		★5/31完了		財務省予算承認(派遣教員数決定)☆												作成		→☆提出(認定は12月)											
																						▲5/31申請書(一部)提出														校長赴任☆		☆派遣教員赴任(3～4名程度)											
対ハンガリー (政府・12区)	学校法人化の検討・実施 ステータスの検討・実施 12区との賃貸借契約交渉 教育省への認可申請 VAT還付・所得税免除交渉	栗田 Erdos 三宅	(森田) 事務員	(KHT新設or補習校KHT継承、etc)-----																		→★5/27KHT名称・社長変更承認(日本人学校開校までは日本人会会長、開校後は運営理事長が社長就任)																											
				(大使館付属とするか否か)-----																		→★大使館付属の申請(→大使承認)																											
				(契約書の内容、契約の当事者、他)-----																		→★7/22賃貸借契約仮調印										☆賃貸借契約正式調印																	
																						資料準備										→△仮申請										☆本申請							
																						VAT還付・所得税免除交渉										-----→																	
予算 (設備・収支)	設備予算&収支予算案作成 ①校舎改修費用 ②教具・備品購入費 ③収支予算案の作成 →入学希望者数確認	山崎	(堀部) (谷中) (山崎)	★設立趣意書案の作成		★商工会での予算案(基本案)承認						★設立計画書案の作成						▲商工会で設備予算案報告						△商工会で収支予算案報告																									
				▲1次見積り		▲2次見積り						最終見積り▲						★費用確定																															
						▲1次見積り												▲2次見積り						予算案作成(収支見積り)→☆05年度収支予算確定(入学金&授業料決定)																									
																		入学仮申込書配付→☆入学希望者数確認																															
寄付 (資金計画)	寄付金募集案の検討・決定 ・負担額の各社への通知 ・子女教育財団への申請 ・銀行との借入交渉及び返済	山崎 沼田	事務員	★設立趣意書案の作成		★商工会での募集案(基本案)承認						★設立計画書案の作成						▲商工会で寄付金募集案報告																															
																		募集方法確定→△商工会各社へ通知						△財団より本社へ通知																									
																		連絡&資料作成→☆申請 審査☆△公示(財務省)						△財団より本社へ通知																									
																		銀行との借入交渉(東銀ウィーン→日本人会)→☆借入開始						返済(財団から送金)←→																									
校舎	校舎改修(通信・冷暖房含む) 共用施設改修	堀部		▲1次案(ラフ仕様)		▲2次案(詳細仕様)		最終仕様決定★		建築業者決定・発注★				工事←		→★改修工事完了																																	
										＜当局への届出・認可不要＞				(7/26-9/24)		★方針決定・商工会に報告		仕様・業者決定☆		☆発注		工事←		→																									
教具・備品	教具・備品購入案作成 発注・予算管理	谷中		詳細検討→▲1次案		仕入先・価格調査		-----→						★1次発注(補習校に必要な備品)																																			
														仕入先・価格調査-----→																																			
学校運営	学則及び就業規則案の作成 共用施設利用方法 セキュリティ(守衛) 給食、その他 ＜区教育長、校長との協議＞	野沢	(森田)	★設立趣意書案(学則)の作成		★設立計画書案(学則)の作成						学則及び就業規則案の決定☆																																					
				ヴィラニョシュ校長との協議→★口頭での基本合意								詳細決定・ヴィラニョシュ校長と文書で合意☆																																					
												警備会社の選定・運営理事会承認→☆						☆正式契約																															
																		＜開校後、父兄より要望があれば運営理事会で検討する＞																															
職員採用	現地教員採用方法の検討 現地教員公募 事務員仮採用&公募 用務員(現地人)採用	澤崎 宗村 林		教員募集方法(公募)の決定★																																													
				教員募集要項案の作成→★承認・公募		一時審査(書類)★		★二次審査(面接)		☆採用決定		☆雇用開始																																					
				事務員業務内容検討・募集要項案の作成→				★仮採用		☆公募		☆採用決定		☆雇用開始																																			
スクールバス	バス利用方法の検討 バス会社の選定、契約等	細川	(上坂)	バス利用状況調査(バス当番、近隣諸国)→		バス利用方法の検討→														バス利用方法の決定☆																													
																				バス会社からの情報収集→バス会社選定☆		(保護者へ案内)		☆バス利用開始																									
その他契約	現地職員との労働契約 給与計算会社との契約 会計事務所との契約 弁護士との契約 医師との契約	細川 谷中	事務員	契約案作成・運営理事会承認→☆		☆正式契約																																											
				選定・運営理事会承認→☆		☆正式契約																																											
				(同上)→☆		☆正式契約																																											
				＜日本人学校開校前までは、補習校または大使館の弁護士を使用する。暫定契約はしない。＞(同上)→☆		☆正式契約																																											
補習校	補習校運営方法の検討 保護者への案内	山崎	(上坂)	補習校存続の可否・運営方法の検討		→★方針決定⇒希望者が自主的に“学習塾”を立ち上げる。設立準備委員会は要請があれば側面支援を行う(大使館に「新補習校」設立準備委員会発足の連絡あり)。																																											
				保護者アンケート実施(11/30)▲説明会(1/24)▲		▲ドナウ通信で方針説明																																											
その他 :委員会開催 :報告／承認	設立準備委員会 日本人学校運営理事会 ドナウ通信ヘレポート 日本人会総会での承認/報告 商工会・保護者会へ報告(※)	森田	堀部 谷中 細川 山崎	19/27	31	14/28	12	2/16/30	-	11/24	8/29	-	17	9/22	27	11	-	26	-	1																													
				▲夏号(上坂)		▲秋号(山崎)		▲冬号(手島)		▲春号(山崎)		-								△冬号		△春号				△夏号																							
								★12/7(手島)																																									
																						△12/5(森田設立準備委員長・野田運営理事長)																											

補習校

文化祭スピーチコンクールより

最優秀賞

私たちは、幸せ

中学三年 村松 佳奈

「アメリカンはそうですね。でも日本では、教科書にのっとってきちんとやりますから」

この夏、日本に一時帰国した時に、見に行った公立高校で言われた言葉です。アメリカンスクールはどうですか、という質問に対して、私が答えた後に、その高校の先生は、ビシッとそう言いました。そんな先生の言葉は、私に、日本の学校は、こういうものかということをはっきりと教えてくれました。

私は、約三年前にハンガリーに来ました。小学校五年生を終わった頃に、ハンガリーに来た私には、アメリカンスクールと言うものが、とても不思議な学校に見えました。日本の学校と、アメリカンスクール。誰もが思うように、この二つの学校は、色々な面で正反対です。私が通っていた日本の小学校は、まさに日本らしく、厳しい学校でした。登校する時は制服で、廊下は右側を歩かないといけない、とか、規則もたくさんありました。授業は完璧に教科書どおりに進めていて、クラスで発表しても、まるで言う事が決まっているみたいに、型どおりの答えしか言わないような学校だったのです。

私にとっては、そう言うモノが学校で、そしてそれが学校というものなんだと、ずっと思ってきて、疑いもしませんでした。

ところが、ハンガリーに来て出会ったアメリカンスクールは、そんな

私の考え方を、百八十度変えたのです。三年間、アメリカンで過ごしてきて、私が、日本の学校と違うと思ったのは、授業中でも、普段の学校生活でも、常に生徒に「考える」と言う事をさせている、一人一人の意見を大切にしていてくれる、ということです。

例えばこの間、動物の特徴についてならったのですが、その時授業で一番初めにやったのは、グループに分かれて、なぜその動物は、そういう特徴を持っているのか、と考える事でした。先生は、もちろんあとで答えを教えてくれるけれど、私たちが考えている間は、あえて間違っている間にも言わず、まず生徒に自由に考える、と言う事をさせてくれました。

日本のように、教科書を開いて、「チーターの足が速いのは獲物を捕まえるためです」などと最初から教えるのは、アメリカンのように考え

させたりしているよりは、一時間でたくさん教えられるでしょう。でも、そうやって聴いているだけだと、授業はつまらないし、時間がたてば忘れてしまう事のほうが多いと思います。自分なりに一生懸命考え、他の人の考えも聞いていく。そして、また考える。そうやって学んで、始めてそれは経験として身につけていくのではないのでしょうか？たとえ教科書と自分の意見がまったく同じではなかったとしても、自分の意見を持つ事は大切な事です。

もちろん、日本の学校の全てを否定しているわけではありません。日本の学校では、逆に、全体で足並みをそろえる事の大切さを教えられました。

私が日本にいたとき、文化祭のためにクラスで出し物をしないといけない事がありました。そう言う時は、もちろんクラス全員が意見を出して、話し合いの結果、一つに決めていく

のですが、そうするためにはやはり、自分のやりたいことを我慢しなければならぬこともあります。全体で動く時、一人一人が、自分のやりたいことだけを考えていたら、チームはばらばらになってとても一つにはなれません。

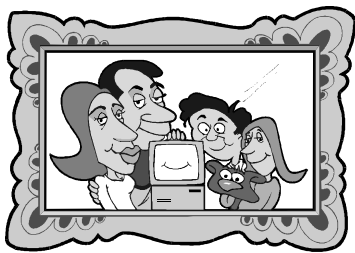
人にあわせる事や、相手の気持ちを理解して、自分が一歩引く事、全体のことを考える事、そういった事も、生きていく上ではきつと大切な事です。

また、日本の学校独特の規則は、厳しいけれども、それは、私に、礼儀正しさを身につけさせてくれました。一般的に、日本人の良さが、礼儀正しさであると言われるのも、学校生活の中でそれをきちんと教えてくれるからではないでしょうか。

アメリカンスクールと、日本の学校。どっちが良くて、どっちがダメ、というのは、はっきりとは決められません。アメリカンスクールにはア

メリカンスクールの、日本には日本の良さが、それぞれあるのです。だからこそ、ここにいて、補習校と、それとは別の学校に行く事ができる、という事は、すごくいいことだと思います。どちらか片方だけよりも、両方経験する事ができる私たちは、きつとこれから先、他の人達よりも、いろいろな考え方ができるようになれる気がします。

ここにいられるのは、限られた、短い時間です。でも、私は、その時間は私たちに、他では知る事のできない、大切な事を教えてくれると信じています。ここに来る事ができて、よかった。私たちは、本当に幸せです。



優秀賞

私の前に続く道

中学二年 上坂 桃

「いよいよだ」

日本への本帰国を前にした今、私はハンガリーでの出来事をゆつくりひとつずつ思い出してみました。

四年前、私がハンガリーに来た時、私の不安は募る一方でした。「外国」という事自体が私にはとても新しく、時間はめまぐるしいほどに早くすぎてゆくので、周りなど全く見えませんでした。ハンガリーについてのときの第一印象は、とても暗く見えて、それに英語がしゃべれなかった事もあって全てが不安に満ちていました。また、日本にいる仲のいい友達との別れは、ただ、ただ悲しく、ハンガリーで、私はこれからどうするのか、学校だけではなく学校以外のものに

もどう対応していくか、など必要以上真剣に悩んでいるそんな私がいやでたまりませんでした。あの頃の私は、ハンガリーに立っていても、常に日本を見ていて、日本の思い出ばかりに頼っていた本当に弱い自分でした。

ところが、ハンガリーの生活に慣れてくると、新しい友達もたくさん出来て、英語も前よりは上達していきつていました。勉強も、はじめは追いつくのが困難だったけれども、とても楽しいものとなりました。四年前とは反対にここの生活になじみすぎて、日本へ戻る事がとても不安になっていたのです。

そんな私の気持ちと関係なく、いつのまにか「帰国」という大きな壁がもう私の目の前に迫っていました。今までの私は、たった四年間の海外生活で、ハンガリーでの生活があたりまえになり、日本人が日本全体を



見ようとしないうと同じように、ハンガリーの隅々に目を向けようとしていませんでした。そこで、帰国が決まってからは、ハンガリーをもう一度、色々な角度から見てみたいと思うようになり、ハンガリーにいる友達とも、最高の時間を過ごしつつ、日本への帰国に備えて勉強をしておきたいと思うようになりました。

帰国が間近になってみて、考えてみるとやはり、ハンガリーへの切符は私にとって、とても大切な物だったのかもしれない。もしも、私がハンガリーに来なければきっと私は、一番近い中学に通って、普通の一番近くの高校に入学して、平凡なつまらない大学生活を送っているのかもしれない。けれども、私はここに来ました。今私はハンガリーに立っているのです。この学校では英語を学び、ハンガリーでは、普通ならば体験できないような、貴重な海外生活を自分自身で経験できました。

海外に来なければ分らないような文化の違いや、マナーの違いに気づくことができたし、日本では到底しないような苦勞を乗り越えたという自信がつき、これからちよつこのことではあきらめないうましさを感じつけたような気がします。

最近では、今という時間を楽しみ、そして日本へ備えて準備している途中です。ハンガリーに來た事で、失う物もたくさんありました。が、失うものだけではなく、得るものもたくさんあったのかもしれない。いえ。失うものよりも、得る物の方が多かったんだと思います。

日本に帰ってからまた、様々な壁にとまどう生活が長く続くだろうと思います。けれども、私の前に続く、大きくも、細くもなる、私だけが変わえられる道を歩くために少しだけ、頑張ってみようと思います。未來の私に恥かしくない私になるために。

ブダペスト新補習校（仮称）

説明会開催のお知らせ

二〇〇五年四月より新補習校（仮称）が開校されます。

これは、現補習校が二〇〇五年三月末日をもって全日制日本人学校に移行することに対応し、同校生徒以外の日本語学習の場を確保することを目的とするものです。現地の学校、または国際学校に通学する児童・生徒を対象に、毎週土曜日午前中、国語の授業を行います。

以下の日程で説明会を開催します。新補習校に入学を希望されるご家庭、興味をお持ちの父母のみなさん、多くの方のご参加をお待ちしています。

日時：二月六日（日曜）一〇時より

場所：Törökész Úti Altalános Iskola
(Törökész 通り小学校)

住所：1025 Budapest, Törökész út

67-69（一一番バス、Pitypang 下車

問合せ：

06-30-549-0893, kako@axelero.hu

提言

数学と数学教育を考える

― 畑村洋太郎『直感でわかる数学』

を読んで

盛田 常夫

日本の学力低下が問題になっている。とくに理数系の低下が著しいという。日本数学会を初めとする学者の学会連合が「文部科学省のゆとり教育は失敗」という提言を出した。先進国の中でも、日本の数学授業時間数は少ない（中学三年で全教科の二三％）という。

さて、一部の人を除き、誰もが数学で苦勞した経験をもつ。数学ができる人はどんな頭の構造をしているのだろうかと考えた人も多いだろう。本当に物わかりが悪くて数学が分からないのか、それとも数学教科

書や先生の教え方が悪いのか。

畑村氏の近著は、明快に後者の立場を主張する。教え方も悪いし、教科書も学ぶ人の立場にたっていないと批判する。自らの学生時代の素朴な疑問にもとづいて、いくつかの数学理論の意味を探って、数学にたいする興味を持ち直そうという呼びかけが本書の狙いである。

いったい、サインとかコサインはどうやって考え出されたのか、常用対数は何のために発明されたか、虚数や複素数は何の役に立つ、微分や積分は何を意味している、ほとんどの微分方程式は解けない等々、著者が抱き続けてきた問題を絵や理屈で説明したものが本書の内容を構成している。

畑村氏が例示したものに限らず、すべての数学理論について、この種の疑問を呈することができる。しかし、学校の数学教師から、そのような疑問にたいする丁寧な説明を受け

た記憶はない。大学の数学授業ではなおさら、そのような「初等的解説」をおこなうことはない。だが、本当にそれで数学教育は良いのだろうか。

何故分からないのか

大学の数学基礎論は集合論の公理から始まる。数学教授は公理から数体系が構成されていくことを示していくが、学生の方は次第にその論理を追跡できなくなる。数学的思考の訓練を受けていない者が、抽象的な論理だけを追跡できるわけがないし、そもそもどうして数学の体系が集合論から始まるのか、その素朴な疑問が払拭されないまま講義が進む。数学者は皆、初めからこのような抽象論理で数学を学んできたのだろうか。そうだとすると、やっぱり頭の構造が違うのか。

しかし、どんな大数学者であつても、最初から抽象的な概念や理論に取り組んだはずがない。具体的な問

題が初めにあり、それを分析する結果として様々な公理を発見し、そこから数学理論が形成されてきたはずだ。ところが、数学者はもちろん、教科書や教師も、それぞれが格闘してきたプロセスを抜きに、あたかも数学理論が公理から何の矛盾もなく創られたかのように、抽象的概念(公理)を演繹的に教え込もうとする。ここからすべての問題が発生する。

研究と教育の違い

このような数学教育では、「人は抽象的概念から出発して理解することができない」という当たり前のことが無視されている。人は具体的なイメージや経験があつて、それと照らし合わせることで抽象的な概念を理解する。それはすべての学問について言える。

ほとんどの数学教科書は、それぞれの数学概念がどのようにして獲得されたかを説明しないで、研究結果

として得られた抽象的な概念から出発して理論を説明していく。これは学者が研究する方法そのものなのだから、最も抽象的な概念から出発して理論を構成していくのは学者の仕事で、これは教育の方法ではない。教育では逆の方法、つまり具体的な事象から出発して、抽象的な概念を説明するプロセスが必要なのだ。

抽象的概念から理論を構成するやり方は理論的方法あるいは構成的方法、具体的な現象から抽象的な概念を得るのは発見的方法あるいは教育的方法と名付けることができる。教育現場に必要なのは発見的方法なのだ。この二つの手法を区別しないで、学者が研究するのと同じ方法で教科書を構成するから、数学学習の意味が理解できない。だから、数学にたいする興味が失われる。

教育の構造的問題

もっとも、日本では教科書検定で、

教科書の内容を最大限に切り捨て、教科書を薄くすることを「ゆとり」と考えているから、文部科学省にも責任がある。発見的教育的方法で数学や理科の教科書を編集すれば、当然のことながら教科書は厚くなる。現在の検定制度が維持される限り、

このような教科書が生まれる余地はない。また、このような教科書ができて、内容を咀嚼し取捨選択して教授するためには、教師にかなり高いレベルの力量が必要とされる。現在の検定制度が存在し、教師が勉強できる余裕と相応の努力がなければ、厚い教科書は使えない。

だから、日本ではエッセンスだけを薄い教科書に詰め込み、子供が興味や関心を持てない状態になっている。数学や理科嫌が増える原因には、学者、教師、文部科学省のそれぞれに責任があり、たんに「ゆとり教育」が問題なのではない。残念なことに、学者にはそれが分からない。たんに

授業時間が少ないとか多いとかの問題ではなく、教育方法にかかわるきわめて基本的で構造的な問題なのだ。

数学は算術か

「ゆとり教育」からの転換は、「百マス計算ドリル」の練習に直結するのだろうか。もちろん、四則演算ができれば話にならない。それは人が言葉を覚えるのと同じこと。しかし、算術計算が得意であれば、数学が分かるわけではない。暗算が得意だから数学専攻を選ぶわけではない。数学は算術ではなく、論理なのだ。それが分からないと、数学教育を理解できない。

現代では複雑な計算はコンピュータがやってくれる。数学が算術なら、もう人は数学を学ぶ必要がないことになる。そんなことはない。それぞれの数学手法の意味を考え、計算式を構成していくのが人間の仕事になる。そこには算術力ではなく、論理

力が必要になる。論理的思考を鍛えることは、他の学問領域を学ぶ基礎にもなる。そういう視点から、数学を見ていくことが必要だ。

だから、数学を算術計算におとしめてしまうような「ドリル練習」は、逆に数学を理解する上で大きな障害になる。計算練習は必要だが、必要以上の練習は無駄だし、意味がなく、逆に弊害の方が大きい。それより、一つ一つの算法や数学手法の意味を教えて行く方が、後年の数学学習に役立つ。「百マス計算」をやることで、数学が分かったと考えてしまうのは、百害あって一利なし。小中学校の教師が数学教育の代わりに、市販のドリル計算で数学授業を終わらせてはならない。

現代数学の始まり

「平行線が交わる」あるいは「一点を通る平行線が何本も引ける」とを前提にした幾何学は、非ユーク

リッド幾何学と呼ばれる。日常的な感覚とは違っているが、地球規模や宇宙規模には、非ユークリッド幾何学が必要になる。地球の表面に巨大な三角形を描くと、内角の和は三六〇度より大きくなる。これを測定するのが、非ユークリッド幾何学である。

身の廻りの空間を観察している限りではニュートン力学で十分だが、原子の世界や宇宙の世界を観察する時には、量子力学や相対性理論が必要になってくる。家を建てたり、物の長さを測ったりするにはユークリッド幾何学やニュートン力学で十分だが、宇宙の大きさを測るためには非ユークリッド幾何学が必要になる。この非ユークリッド幾何学は一九世紀半ばになって漸く、人類が発見したものだ。ハンガリーのボヤイ、ロシアのロバチェフスキー、そしてドイツのリーマンが、ほぼ同じ時期にこの理論に到達した。

ユークリッドの体系が構築されて
ほぼ一五〇〇年の時間を経て、人類
は新しい幾何学を手に入れた。ニュ
ートン力学が構築されたのは一七世
紀半ばで、量子力学が構築されるの
は一九二〇年代である。どうしてこ
の時期に、人類は新たな理論を構築
できたのだろうか。こういうことを
考えるだけで、近代社会と科学の発
展の歴史にたいする関心が生まれる
はずだ。数学・物理教育は、学ぶ者
の関心をこうした科学史の世界にひ
きこまなければならぬ。

数の不思議

数学の基礎は「数（かず）」。
物事を一つ二つと数えていくことから、
数学が始まった。世界のあらゆるも
のを数字に転換する、つまり数とい
う形や、数と数との関係で世界のこ
とを表そうとするのが数学という学
問。世界や物事の中身ではなく、数
や関係で表される形式を扱うのが数

学なのだ。

数の基礎は、一つ二つと勘定でき
る数字。それを自然数という。一つ
ずつ離れているので、離散的な数と
も言われる。我々がふつうに使って
いる数字だ。

もう一つの数字は、連続的な数。
切つても切りきれない、繋がってい
る数字。長さや水量は一つ二つと数
えることができない。数直線の1と
2の間には1・5がある。1・5と1
の間には、1・125がある。1・1
25と1の間には、また別の数があ
る。こうやって、無限に数を見つけ
ることができる。これが実数の世界。
これは素粒子の世界を見るようもの
だ。

世の中には、一つ二つと数えられ
るものと、数えられないものがある
から、自然数も実数も世界の有り様
と結びついている。どちらにしろ、
自然数と実数は数学の基礎の基礎な
のだ。だから、数学では何よりもま

ず、自然数の集合とか、実数の集合
を考えることから始まる。これらの
集合はいったいどのような特性をも
っているのか、それ確定することか
ら現代数学が始まった。

現代数学は無限と格闘している

非ユークリッド幾何学の発見から
やや遅れて、一九世紀後半にカント
ールの集合論が生まれた。この二つ
の理論によつて、数学は大転換を迎
えることになった。カントールによ
る集合論的な数学手法にもとづいて、
数学理論を公理的に再構成するこ
とが、二〇世紀数学の課題になった。
現在もなお、現代数学はカントール
が開発した集合論にもとづいて理論
を構成し、教科書を作成している。
だから、カントールに始まる現代数
学の基本問題を理解しておくことは、
きわめて重要なのである。

カントールの主題は何か。それは
実数の集合の研究である。自然数も

実数も、無限の要素をもつ集合である。有限の世界はわれわれの日常の世界。無限は宇宙の世界であり、素粒子の世界だ。無限の世界には有限の世界とは違う法則が支配している。もっとも、人類が無限の世界をどこまで理解できるのか、それ自体が根本問題だが。

有限集合では、当然のことながら全体集合は部分集合より大きい。しかし、無限集合ではこれが成り立たなくなる。ここから集合論にまつわる各種のパラドックスが出てくる。また、実数の無限性の特性から、たとえば「ゼノンの矢」のようなパラドックスが出てくる。数学者は明快に説明しないが、「ゼノンの矢」の矛盾は、時間を捨象した数学的論理的無限と、物理学の現実的無限の混同にもとづいている。こういう視点で見ると、数学の無限と物理学の無限を比較するという興味深い問題が出てくる。

同じ無限集合でも、自然数は単調に無限に発散していく集合だが、実数は隙間なく詰まった数の集合である。この二つの無限集合は同じだけの濃さ（濃度）をもっているのだろうか、それとも違う濃さをもっているのだろうか。カントールは実数の方が濃い集合だと証明した。しかし、「実数集合の濃度」は、「自然数集合の濃度」の次に来る「無限の濃さ」かどうか、これを証明することができなかった。これが二〇世紀の数学者を格闘させた集合論の基本問題（連続体仮説）である。

二〇世紀の数学

カントールの路線にもとづいて現代数学を再構築しようとしたのがヒルベルトであり、ハンガリー人ノイマンこそヒルベルトの構想に共鳴し、現代数学の公理体系を確立しようとした数学者である。そのヒルベルトが一九〇〇年の国

際数学者会議で発表した「二〇世紀二三の問題」が、現代数学の出発点になった。二三の問題のうち、完全に解決されたものはわずかで、多くが一部解決か未解決のままになっている。二三の問題の第一問題が「連続体仮説」であり、第二問題は「算術公理の無矛盾性」である。

われわれが当然のように使用している算術（四則演算）の論理は、本当に矛盾がないものなのだろうか。集合論に依拠することで、この問題に結論を与えることができるようになった。自然数にかんする算術公理が無矛盾であることは証明されたが、実数にかんする算術公理が無矛盾であることは現在もなお証明されていない。

なぜこのような「自明の問題」を数学者は問題にするのだろうか。疑問に思ふかもしれない。確かに、自然数については「自明」のように思われるが、自然数も実数も無限集合だ

から、有限的視点からいかにして、その命題が真であることを証明ができるのか。これが無限を取り扱う数学問題の根底にある。つまり、「無限の世界を有限的に証明することができるのか」という根本問題が、人間の頭で創った数学に問われている。

無限が生み出すパラドックス

ヒルベルト学派の俊英ノイマンが、ヒルベルト路線と決別し、公理にもとづく数学体系の構築の仕事を放棄した契機は、ゲーデルによる「不完全性定理」(一九三〇年)の証明にある。ノイマン二七歳、ゲーデル二四歳のことである。アリストテレス以来の論理学者とも評されるゲーデルの論理証明を、即座に理解できたのはノイマン一人だった。ヒルベルトは死ぬまで、ゲーデルの定理を受け入れなかった。

「ある公理系における命題が無矛盾であつても、それを公理体系内で

証明することはできない」という「不完全性定理」が一般的に成立すれば、ヒルベルトが推進する公理体系の完成化は不可能だということを意味する。ゲーデルがこの不可能性を証明し、ノイマンはそれを即座に理解した。現代数学の基本問題を理解し、二〇世紀の数学世界をリードしたのが、ハンガリーとチェコ出身の二人の天才であり、ウィーン大学を拠点とする数学サークルであつた。以後、ゲーデルはノイマンを無二の友人として頼り、ノイマンもまた着任したプリンストン大学にゲーデルを招聘することに尽力を尽くした。

この不完全性定理をどう理解したらよいのだろうか。ある公理系の命題を証明しようと思えば、それを超える公理系が必要になり、さらにその公理系で証明しようとするれば、さらにそれを超える公理系が必要になる。つまり、証明には無限の過程が必要になるということだろうか。こ

れは人間の世界理解が無限の階層性をもっていることを意味しているのではないだろうか。もちろん、それは世界が無限の階層性から創られていることの人間の頭脳への反映であるはずだが。

このように、現代数学の世界は中欧の文化的世界と密接に結びついて発展してきたし、宇宙や素粒子の世界の現代的理解とも密接に結びついている。

繰り返すが、数学の学習をドリル計算に矮小化してはならない。数学は算術ではなく、世界を論理的に認識する手法なのだ。



随想

骨折治療日記

飯尾 欽哉

「あなたを手術した先生は先月末この病院を辞めました。新しい主治医は只今夏季休暇中です。来週月曜日に予約をとってまたお出でください、」と看護婦長から言われたのは九月一日（火）のもうお昼に近かった。朝五時半に起きて、予め頼んでおいた送迎用の救急車で病院に着いたのが七時前。一時間ほど待って八時に採尿、採血。次いで九時前にレントゲン撮影、あとは足に埋め込んであるネジの抜き取り手術を待つばかりだった。「空き部屋が無いから暫くお待ち下さい」と言われてから更に待つこと三時間。結局この日は他になす術も無く、ギプスをしたままの重い足をひきずってす

ごすご帰宅せざるを得なかった。

八月三日 朝一〇時

自宅マンション階段踊り場で足を滑らせて転倒。掃除後の水濡れに気付かなかったのがいけなかった。騒ぎに駆けつけた隣人に直ぐ救急車を呼んでもらい、待つこと三〇分。倒れたその場で救急隊員にパスポートや社会保険証を提示、簡単な諸手続を経て病院に担ぎ込まれたのが一一時。後日分ったのだが、この日の指定緊急病院は他に選択余地の無い国立ヤーノシユ病院だった。同病院には似たような怪我人仲間が数多くおり、吹きさらしの廊下で診察を待ち受けていた。

血圧測定、心電図検査、次に点滴を二本。「手術の開始時間は分りません」。その日の夜一〇時を過ぎてからようやく半身麻酔をうち、約一時間に及んだ手術を無事（？）終了、六人の共同部屋に担架のまま運ばれた。麻酔と睡眠薬が切れたのが明け方四時頃。さすがに痛みが激しい。痛み止めの注射でもうって貰おうと思ったが、呼び鈴が手元に無い。肩から三角巾を吊っている同室の患者が心配で気付き、宿直の看護婦を呼んでくれて痛み止めの薬を飲んでから少し落ち着くことができた。

八月四日～一〇日までの入院生活

〈白衣の天使〉 白衣の看護婦が居ない。先ずこれからお世話になる担当の看護婦を覚えておこうとしたが、誰が看護婦だか全く見当がつかない。Ｔシャツのおねえさん、汚い上着をつけたおばさんらが、洗面、シーツの取替え、尿びんの交換、包帯の交換、

薬の配給、給仕、病室の掃除等々を行うのだが、係の人が皆違う。看護夫と思われる人も病室を出入りしている。結局、包帯を換えてくれる恐い目のおばさんと、注射を打ったり薬を配ったりして歩くいわゆる直接医療行為に携わる人だけが看護婦のようで、その他人は時間給で働く臨時雇いで、日によつて人が違うのだと判明した。それにしてもあのＴシャツに香水や、薄汚い上着は病院にはふさわしくない。

へ化学の実験へ 夕方に尿びんの中身を捨ててもらうのを忘れ、酷い目に会う。手術二日目の夜中、満杯になった尿びんに追加の余地がない。結局机の上に置いてあったペットボトルの水を飲み干し、尿びんの中身をそちらに移し変えてコト無きを得た。深夜、目の上の高さで尿をやり取りする姿は正に化学の実験に真剣な博士そのもの。中学時代好きだった化学の実験がここで生きた。あの時もし月明かり

がなかったら一体どうなっていたかと思う。

へチップ制度へ 急なことだったので、お金を持っていない。手術後三日間はベッドシーツの交換無し。隣の患者が毎朝やっているような洗面と身体拭きのサービスも無い。ヒマに任せて周囲を良く見ていると、隣の患者はこれらサービス（？）の後には必ずズボンのポケットに何がしかの小銭をこじ入れている。先の尿びんの交換について「ああこれが必要だったのだ！」と気がついた。見舞いに来た家内とハンガリーの友人の手によつて周囲の関係者にチップを渡してもらつてから、一気にサービスの質が向上した。以降、本人の真意とは別にこの悪しき習慣と制度を利用して頂くことになる。

以下、お布施の対象となった人達を列挙しておきます。
執刀医、主治医、看護婦長、看護婦、

ギプス工、病室に出入りする人達一人あまり、救急隊員、送迎用救急車の運転手とその助手、地区診療所の担当医（後述）、その他大勢。

八月一日 退院

朝から松葉杖を使った歩き方を教わった。予定の時間に遅れること二時間、ようやくやってきた送迎用救急車で帰宅。一週間ぶりに見る太陽が眩しい。夜の一時頃になると必ず演説を始める軍隊上がりのお老人、赤いうさぎマーク付のプレーボーイパンツを穿いた青年、交通事故で殆ど動けない無口のおやじ、紙の置いていない汚い便所、何とも表現のしようがない病院食とも今日でお別れだ。残された患者の皆さん、「面会時間、消灯時間、病室での禁煙を守って下さい」。プレーボーイパンツのところに見舞いに来るガールフレンド、「香水を撒き散らすのは止めて。それに携帯電話をしょっちゅうかけるのを止めて下さい」。

以降、自宅治療に入る。血液凝固を防ぐために夕食後は必ず注射を打つように指示を受けた。この注射の打ち方は最寄りの地区診療所の紹介を得て、看護師に自宅に来てもらって教わった。

八月一二日 抜糸、ギプス装着

へ受付が無い。主治医に言われた通り早朝に病院に着くが、受付が何処にあるのか分らない。入口付近を往き来る病院の関係者らしき人に聞いても何処に行ったらよいのか分らない。結局、入院時に登録手続を取った急患用の窓口で無理やり(?) 受け付けてもらった。待つこと二時間。X線をとり終えたところでようやく主治医がやってきた。左足スネとくるぶし付近二箇所、夫々一二センチの手術跡。傷口は見事に塞がっていた。主治医が同行してくれると仕事が速い。直ぐにギプスの部屋に入って、ギプスを装着。「消費税無し」の質の良い方を注文し

た。

ただひたすら日が経つのを待つ。もしオリンピックが無かったら、どんなにか暇を持て余したことだろう。それでも大量のビデオを観、漫画本や小説を読み漁った。二階によじ登って時折り開くメーラーには、日本の友人からの励ましのメッセージ、「焦らずゆつくり骨休ませい!」と。

一ヶ月のギプス生活を終え、いよいよ九月一四日は足に埋め込んだネジ取り手術が予定されている。久しぶりの外出と、このうつとうしいギプスを外す興奮で寝つきが悪い。

九月一四日 Ⅱ巻頭参照Ⅱ どうにもこうにも「参りました!」

九月一五日、一六日 転院の試み

主治医がいなければ仕方が無い。今後の不安を取り除くために、以前に胸の打撲や膝の治療でお世話になった自宅近くのスポーツ病院に、ハンガリ

ーの友人を通じて転院を打診。医者、X線係、事務局員、計三人の「そういうことでしたら明日お越し下さい」という事前了解を得た上で、翌一六日指定の場所と時間に赴いた。ここでも待つこと三時間。ようやく通された処置室で医者が耳元で囁くように言うには、「ご承知のように、転院には元の病院長の許可が要るんです。ここの病院のボスがダメと言っていますし・・・」。又もやすすごと退散。では前日の了解は一体何であつたのか。

九月二〇日 病院への確認

転院が不可能となつた今、残された道はただひとつ。元の病院を頼るしかない。

ハンガリーの友人を通じてほぼ半日電話をかけまくってもらい、ようやく明日の診療に対する予約の確認が取れた(病院側の都合で生じたミスなのに、なぜ患者が自ら予約を確認しな

いといけないのか)。

九月二一日 ネジ抜き手術

七時半病院着。再び受付の在り処を探しているうちに運良く主治医がやってくる場所に落ち合う。八時よりX線撮影。採血のあと長くお世話になったギプスを外す。次いでネジ抜き手術の為の予備室に通され点滴を一本。昼前ようやく手術の時間となり、全身裸になって覚悟を決める。急に周囲が慌しくなったので何事が起こったのかと思ったら、「急患が手術を要するため、その他の手術は後回し」とのこと。待つこと二時間、ようやく順番が回ってきた。一旦決めた覚悟をほどこしてからまた決めるのって、かなり難しい。手術は無事終了。麻酔が切れるまで安静にして、その日帰宅したのは二一時を回っていた。

九月二七日 X線撮影、検診

七時半病院着。例によって受け探

してごたごたのあと、X線撮影。その後待つこと三時間。結局この日は主治医が不在で、廊下で検診を待ち続けたが何事も起きず。急患用の先生が気の毒と思ってか代わりに診てくれたが結局どうするでもなく帰宅を余儀なくされた。

九月三〇日 検診

前回検診の空振りを受けての再検診。七時半病院着。病院入って直ぐの左側に三〇センチ四方の窓口があり、ここが受付(らしき場所)と判明。ただ、いつも開いているとは限らず、未だにこの窓口の何たるかが不明(最初はパチンコの景品両替所かと思った)。二時間ほど待たされてようやく主治医との面談が叶う。足は二一日にギプスを外して素足のまま。X線によれば順調に回復している由。主治医に「歩け」と言われるが、足首に足枷をはめたようで体重を乗せると痛くて「歩けない」。それでも、「松葉杖を使わない

ようにして歩くようにしなさい」と言われて帰宅。次回の検診は一〇月二五日とのこと。

その後やはり無理をしても体重を乗せては歩けない。小回りの利かない松葉杖に代わって、肘までかかる杖を購入、以来この杖のお世話になる。

一〇月二五日 X線、検診

七時病院着。家内が日本一時帰国中のためハンガリーの友人に同行を依頼した。相変わらず受付が不在。八時前に前述の景品両替所が開き直ぐに手続を取る。

X線撮影。その後待てど暮らせど何の音沙汰も無し。写真を持ち込んだ近場の小部屋に何度も顔を出し中にいる人に問い合わせるが、「外で待ちなさい」の繰り返し。ハンガリーの友人もさすがに痺れを切らせて部屋の中を覗きこむが、逆に怒鳴られる始末。三時間待ったところで「あと一〇分待て」とのこと。その後また半時間。偶々

そこを通りかかった顔見知りの病院関係者に主治医の居所を尋ねてみたら、「夕方になれば戻ってくるが、確約は出来ない」そうだ。そんな所で待っていても仕方が無い。X線写真を引き戻して病院を引き上げた。

一 一月三日 検診、再度歩行用ギプス

先二五日の結果を聞いた別の友人が心配してくれて病院側と今後の診療につき電話談判してくれた。上手いことに主治医の携帯電話番号を聞き出した由。その携帯電話で今日の診療がなかった。朝八時、待ち合わせどおりに主治医がやってきた。先のX線写真を診てひと言、「じん帯の治りが遅い。歩行用ギプスをつけて様子を見よう」。主治医付き添いの下、石膏の歩行用ギプスをはめてもらい、

病院をあとにする。ハンガリーの友人がどのような手品を使ったのかは知らないが、始めて納得の行く検診だった（お布施と引換に必ず携帯電話の番

号を聞いておくこと。病院の電話はたらいまわしにされること請け合い）。

一 一月二五日 検診

先の友人から携帯電話で検診時間の確認を入れたところ、手術で多忙を理由に先延ばしとなる。「あと三週間そのままいなさい」と。うまくゆけばこの日にギプスが外れ、晴れて自由の身となるところだった。歩行用ギプスをして以来、体重を乗せて歩いても痛みは無く、不自由もなく歩けるようになった。ネジ取り手術の後にギプスを外して以来六週間ものあいだ素足で放っておかれたのは一体何が目的だったのか。あの時すぐに歩行用のギプスに切り替えておけば良かったのではないか、と思ってもあとの祭り。

一 二月一六日（木）歩行用ギプスが外れてリハビリの開始

クリスマス休暇で主治医の不在を恐れ、一三日から先の友人が携帯電話

で次回の診療日を何度も確認する。七時半病院着。八時に携帯電話に確認を入れると主治医が直ぐにやってきた。今回はX線も撮らず、ギプス室に直行。長い間お世話になった石膏を先の曲がったペンチでゴリゴリと切り裂いてゆく。おおこの解放感！だがこれ本当に自分の足かな？

「お大事に。何かあったらいつでも来なさい」の主治医の言葉を素直な気持ちで受取れない自分がいた。

さてこれから冬本番。せいぜいリハビリに精を出すことに致しましょう。もう二度とこんなトラブルはごめんです。かかるトラブルから逃れる唯一の方法。「この国では決して怪我や病気をしないこと」に尽きます。



〈番外編〉 当国社会保険制度

当国の社会保険制度は日本流に言うところの国民健康保健制度、失業保険制度、国民年金制度等が混ざり合った制度です。今回の事故は通勤途上災害、いわゆる労働者災害補償制度、即ち「労災」に相当するものでした。因みに支払い保険料は今年の五月から制度が変わって、毎月のグロス給与の約四〇%強。

保険料の受取りには、病院での診療の都度速やかに主治医による診療報告書を、居住する最寄の地区医（地区診療所）に提出、その確認と追認の証明書と共に然るべき書類を社会保険庁に提出した上で査定を受ける仕組みになっています。

私の場合、足の骨折で自由に動きが取れないため、主治医による診療報告書はその都度ハンガリーの友人に託して地区医に提出、その証明書は私の所有する会社と業務提携する会計士（兼税理士）に同居する社会労働士を

経由して社会保険庁に提出しました。地区医からは突然の呼び出しを受け、指定された日時に出頭することが義務付けられています。私は過去三回の呼び出しに応じました。

地区医には例によって受付が無く、一番遅く来た人が誰かを確認して順番を待つのです。コネのある人が優先しますから、その順番が分らなくなる事がしょっちゅう。日頃からのチップは大抵の人が実行しているので、余程の多額でない限り有効とはいえませんが。一時間ぐらい待たされるのは普通です。二時間なら早い方と思ったら良いでしょう。待つて漸く自分の時間が来て、ギプスをはめたこの足を見ただけで「結構です」。何故、こういうことになるのか？事故や病気を装って保険料をだましとる「詐欺」が横行しているからではないでしょうか？多くの疑惑は何も医療に限ったことではないようです。真面目な市民は何処にいつても迷惑を蒙るのです。

今回の怪我の治療中、不満を漏らす私にハンガリー人の多くの友人から、「だってハンガリーだもの」とか、「これがハンガリー」というセリフを何度もしきりに聞きました。何事においてもそうですが、本来恥ずべきことですよ。実は私、二五年前の共産圏時代に四年間の駐在経験のある者ですが、こんなに無気力ではなかったような気がします。

昨日、社会保険庁からの手紙を受け取りました。書類に会社のスタンプが押してない。書類に不備があるそうです。さて、保険料の入金と足の怪我の完治とどちらが先になりますか。



小春日和

竹内 勝則

本編の前に連絡とお礼を申し上げます。

ドナウ通信六〇号に掲載させて頂いた小編について、後日談があります。読者の方は覚えておいででしょうか。ヘリフェジ一の前の道路で自爆事故を起こした時に天使が助けてくれたことを。

その後そこを通った時に同じ様にポールが曲がっているのを発見し、同じ事故を起こす人が居るんだなと思った時に、花輪が置かれていることに気付きました。

私の場合は笑い話で済みましたが、死人が出ては笑えません。何とかして貰えないのかな、とぶつぶつ言いながら通り過ぎました。しばらくしてここを工事している姿を見ました。どうするのかなと関心を持って見て

いたのですが、信号が点きました。車線も二車線が続くようになりました。

会社の仲間たちはこの信号を竹内信号と言っています。私の雑文が何らかのきっかけを作ったのであれば、こんなに嬉しいことはありません。改めて御礼申し上げます。有難う御座います。

では、本編に入ります。

一〇月二三日（土）朝からブダペストはしとしとと雨が降っていました。八時に車でウィーンへ向いました。樂友協会でのクラシック演奏会を初めて聴きに行くのです。

国境近くで雨は小ぶりになってきたものの、霧が濃くなってきました。天気が良いとたくさん見える風車を一つも確認できませんでした。

演奏会は夜七時半開始ですので、昼食をとった後シェーンブルン宮殿へ行きました。

お昼頃になると、天気は急速に回復してきました。宮殿に着いたのが午後二時頃でしたが、その時は快晴になっていました。時期は黄葉の真っ盛りです。中庭の高台の所まで歩きました。高台から見下ろす景色は素晴らしいものでした。

ここで良いものを二つ見ました。シェーンブルン宮殿に行かれた方はたくさんおられると思いますが、中庭の高台に小さな池があります。おしどり、鴨、鳩などが日向ぼっこをしています。たくさんの鳥達が池の周りの芝の上で休んでいました。ベンチに座っていい天気だなあなどと、こちらも日向ぼっこをしています。すると、五歳くらいの女の子が池に近づいて行き、「はあく。はあく。」と声を出しながら、鳥達を芝の上から池へと追い散らし始めました。両腕を広げて追い散らし、鳥達は池の中に入ってしまった。その子が居なくなると、鳥達は又芝の上に戻っ

てきました。

今度は中学生くらいの兄と小学校三年生くらいの弟の兄弟が、餌を撒き始めました。兄の方は手の平の上に餌を置いて食べさせていました。弟は芝や池の上に餌を投げていました。鳥達にとって小さい子は怪獣だなあ、などと思いながら見ていました。

そんな光景を近くの大人達も目を細めて眺めていました。真っ青に晴れ風も無い午後の昼下がり、黄葉の木々に囲まれた小さな池は、気候も心も小春日和の暖かさでした。こんな気分になったのは何年ぶりのことだろうか。子供達を連れて千葉の動物園で象やペンギンを見て、みんなでお昼ご飯を食べていた時に、こんな和やかな気分を味わったかな、と昔のことを想い出したりしました。池を離れて黄葉の中を散策していると、りすが木の実を探している姿に出会いました。

写真を撮ったりしましたが、歩いていくと「あれ、こっちにもいる。」「あれ、こっちもだ」と何匹も見つけました。しかし、木の実探しに忙しいのか、人を恐れてか、私の方に近づこうとはせず、しきりに遠くで動き回っていました。

植物園がある公園の中で、又りすを見つけました。しかも、何と私の方に真っ直ぐ近づいてきました。私が立っている前のベンチの上に乗って、上を見上げて私を見たのです。目と目が合って、私もりすも「こんにちは」と頭を下げました。確かにちよつとばかり頭を下げたように見えました。

「ありやありや、りすと挨拶しちゃったよ」。

そのりすはそのまま私の横を通り過ぎて、後ろの方へ行ってしまうしました。

心も体もじんわりと暖かくなってくるようでした。すごく得をした気分です。

その夜、楽友協会でベートーベンのピアノ協奏曲皇帝とブラームスの交響曲第一番を一番前の席でかぶりで聴きました。どちらも素晴らしい演奏で堪能しました。いい一日でした。



日帰りできるスキー場情報

ハンガリーからでも日帰りスキーができないことはない。ブダペストを朝八時に出発すれば、オーストリアのゼンメリング (Semmering) に昼前に到着できる。

およそ三時間から三時間半の行程。一時からは割引の一日券が買えるし、一二時半からは午後券で滑れる。もちろん、日本のような日帰り客の更衣室施設などはない。家を出発する時にウェアを着込み、現地でシューズを履き替えるだけ。ナイター・コースもあるから、一泊すれば、ヴァリエーションが増える。

さて、ゼンメリングだが、知る人ぞ知るハプスブルグ家の夏の別荘があった南アルプスの避暑地。ここから見える **Schneberg** の頂は、その名の通り、富士山頂のような雪の冠を抱いている。ここがウィーンの飲料水を供給する水源で、バーデン (Baden bei Wien) を通ってウィーン南の貯水場に入る。ゼンメリング

はウィーンからほぼ九〇キロ南に下ったところにあり、ニーダー・オーストライツヒ州 (南アルプス) とシュタイヤーマルク州の境に位置する。ショプロンからは七〇余キロ。

行き方：一番簡単なのはすべて高速道路を使い、ウィーンに近づいたら **Graz** の標識を探して、南高速道路 (Südbahn、A2線) に乗りグラーツ方面に五六キロ走る。そこから **Semmering** の標識を目印にS6線に入る。三〇キロほど走るとスキー場に到着する。この行程の全体の走行距離がほぼ三四〇キロ。

ショプロンから入る場合には、国境を越え、最初の町を過ぎて暫く走ると、高速道路の架橋が見える。これをくぐってすぐに **Mattersburg** 方面に向かって高速道路に入る。後は **Graz** 方面の標識を目指して走る。**Graz・Wien** 方面に二、三度乗り換えるが、最後にはA2 (南高速道路) に合流し、ほどなくS6線に入る。このコースがおよそ三〇〇キロ。

どちらが速いかは一概に言えない。ショプロン経由はジュール・ショプロンが通常の対面交通路となる。ヘッジェシュハーロムが混むようだと、ショプロン経由が速い。ハンガリー側もオーストリア側も**高速道路券**の購入を忘れないこと。両方とも、ハンガリーのガソリンスタンドで購入する。

注意点：S6線にゼンメリングの麓を貫通するトンネルが完成したので、ここに入らないことが肝要。ゼンメリングに近づく短いトンネルが二つあり、これを過ぎると左手に **Agip** のガソリンスタンドが見え、真正面に大きな山とそこに入るゼンメリングトンネルが見える。ここで高速道路から右に外れ、右手に鋭角に曲がる急坂を上る。上りきったところが、ゼンメリングのスキー場 (**Hirschenkogel**、ヒルシェンコーゲル)。この坂では良く事故が起こるので、路面の状態に注意する必要がある。



ゼンメルリングのヒルシェンコーゲル・スキー場。正面が W 杯ナイター回転コース

間違っってこの長いトンネルに入ってしまった場合も慌てる必要はない。トンネルを出たところで旧道に出て、五、六キロ戻れば良い。高速道路を降りたところが、**Spital** (シュピタル) というゼンメルリングの村で、ここにもう一つのスキー場 (**Stuhleck** シュトゥウレッケ) がある。ここからゼンメルリングの中心街に戻る道は平坦なので、天候が悪い時には、かえってこちらの方が安全かもしれない。

国境やチェックポイントでチェーン装備の有無を確認されることがあるので、チェーンを車に載せておくは必須。また、住宅地以外の場所でタイヤ交換やチェーン装着などのために車外で活動する場合には、**蛍光塗料の付いたベスト**を着ることが義務づけられた。これは夏冬にかかわらず、ほとんどの EU 諸国で二〇〇四年から義務化され、これに違反すると罰金を取られる。常に装備している必要がある。ハンガリーのガソリンスタンドで、二〇〇〇 Ft ほどで売っている。

忘れてならないことは、自動車保険会

社に行って、国外での事故に通用する**グリーンカード** (**zöldkártya**) を取得しておくこと。強制保険の支払い済みチェックを見せれば、無料で発行してくれる。

スキー場：日光の「いろは坂」のような急坂を登り切ると、すぐ左手にスキー場 (**www.hirschenkogel.at**) が見える。これがヒルシェンコーゲルのスキー場。正面のコースは、女子 W 杯回転競技にも使用され、ナイター (営業時間は一八時、二二時) 照明施設がある。このコースの標高差は四〇〇 m、滑走距離一キロ強。短い斜度があり、一気に滑り降りるにはかなりの脚力が必要。この地域のスキー場で、W 杯のコースに使われるのはここだけ。このほかに、少し長い二つのコースとファミリーコースがある。

ふつうゼンメルリングというところのスキー場を指すが、既述したようにここからさらに五キロほど行った **Spital** に、**Stuhleck** 山 (一七五〇 m) のスキー場 (**www.stuhleck.com**) がある。これもゼ

ンメリング・スキー場だが、二つのスキー場のリフト券は共通になっていない。

コースの多様性や滑走距離から見ると、この **Stuhleck** の方が面白い。ここの主要二コースは標高差七〇〇m〜八〇〇m、滑走距離三キロ弱（頂上からは四キロ）あり、正面のコースは百m近い幅があり、晴れていれば背後からコース全体に光が差すので、滑りやすい。正面隣のコースは **FIS** の滑降コースに認定されている。

ヨーロッパのスキー場はコースが長く、斜度もある。さらに気温が低いので雪が軽く、滑り心地が良い。ただ、ゼンメリングは積雪量が少ないので、間断なく人工雪を降らせ、コース全体を圧雪車で固めている。このため、ベースはすでに氷状態になっていてバーンが堅いので、初心者にはきつい。気温が低いので、人工雪でもコース表面の雪質は軽く、日本のべたべたした人工雪とは違う。

宿 泊：主な宿泊施設は **Hirschenkogel** のスキー場周辺にある。「いろは坂」を上り

きつてすぐに鋭角に右に曲がる路地があり、この両側にペンションが並んでいる。路地が見えにくいので注意。路地に入っですぐ左にスーパールがある。その先が、ハンガリー人も多く利用するペンション **Belvedere**。宿は良くないが、食事が美味しいので、夕食に利用すると良い。さらに路を奥に進むと、五つ星のホテル **Panhans** がある。ホテルの向こうにもペンションが続いており、スキーの後の散策にも向いている。

私が利用するのは **Palace** ホテル。「いろは坂」を上りきった後、左手のスキー場に入り、そこから五〇〇mほど奥にある。昨年からは所有者が変わり **CD Palace Hotel** (www.palacehotel.at) と名前が変わった。二食付きで一泊五三ユーロ（ツイン利用の場合の一名料金）、シングルユースが六三ユーロ。大きなプールとサウナが付いている。新しい建物なので、気持ちが良い。これより安いところは少ない。**Panhans** の宿泊料金は、**Place** ホテルのほぼ倍。なお、**Panhans** も **Palace** ホ

テルもサウナは混浴である。

ゼンメリングのホームページ (www.semmering.at) で宿を探すことができる。ホームページ経由の直接予約システムは機能していないので、宿の電話・FAX 番号あるいはメールアドレスを入手して、直接申し込む。

リフト券：安くない。**Hirschenkogel** の一日券が二六ユーロ、**Stuhleck** のそれが二九ユーロ。人工雪の設備とリフトへの投資から、この地域で一番高くなっている。

Hirschenkogel のメインリフトはキャビンになっていて、寒い時や短時間によく滑りたい時に便利。普通の一日券は共通ではないが、**Hirschenkogel** のスキー場窓口で、一日券の **Regionskarte**（二九ユーロ）を購入すれば、**Stuhleck** スキー場も利用できる。

一日券 (**Tageskarte**) のほかに、「一二時半までの午前券 (**Vormittagskarte**)」、それ以後の午後券 (**Nachmittagskarte**)、三時間券 (**3 Stundenkarte**)、ナイター券

(Abendkarte)、午後・ナイター券
(Nachmitag u Nachtkarte) など各種の
チケットがある。

シーズンパスの一つで一二〇ユーロの
フォアタイルス・カード
(NÖ-Vorteilscard : Niederösterreich
Vorteilscard) を買うと、隣接する二つの
スキー場だけでなく、この地域すべての
スキー場で利用できる。チェックポイン
トを通るごとに、ポイントが減少してい
くパスで、ほぼ五〜六日分の一日券に対
応し、料金では二割引計算になっている。
来シーズンまでポイントを持ち越すこと
もできるので、無駄にならない。ハンガ
リーの旅行社でも購入できるし、スキー
場チケット売り場でも購入できる。

貸しスキー…スキー場に併設された貸し
スキーショップで貸し出している。五日
以上滑る場合には、ハンガリーで一式揃
えた方が安く上がる。ビンディング込み
で四〜五万 Ft からスキーセットが買える。
シューズも日本で買うより安い。ただし、

フアッションやサイズの点でウェアの選
択肢はほとんどない。それはオーストリ
アでも同じ。

貸しスキー・シューズで構わないなら、
ゲレルト広場からブダフォキ通りに入っ
て三番目の通りの角にある旅行社兼貸し
スキーショップ (Budafoki ut 19) が、
非常に安価な料金で提供している。

買い物:食料品は Hirschenkogel のスーパ
ーで済ませるが、もう少しショッピング
したい場合には、旧道を Spital に向かい、
そこからさらに五キロほどいったところ
の Mürzzuschlag で楽しめる。この町へ行
く街道沿いに自動車用品専門店があり、
タイヤやチェーンなども販売している。
Mürzzuschlag には大きなスーパーや専門
店がある。ブラームス博物館もある。ウ
イーンからこの南アルプスを通る南鉄道
の区間のうち、ゼンメルング区間はユネ
スコの文化遺産に指定されていて、
Mürzzuschlag の駅には鉄道博物館が併設
されている。

帰 路:ゼンメルングの町から「いろは

坂」を下りて S 6 線に入る。トンネルが
開通したために、入り口が非常に複雑に
なったが、ウィーン方面の標識に沿って
回り込んで入る。S 6 から A 2 線のウイ
ーン方面に乗って間もなく、ハンガリー
の国境を示す H のマークが出てくる。こ
れに沿って走るとショプロンに出る。ゼ
ンメルングから七〇キロ余だから、ショ
プロン国境まで一時間もかからない。途
中、ハンガリー国境方面に二つの標識が
同時に出てくることに注意。一つは
Deutschkreutz 方面、もう一つは
Klingenbach 方面。前者はコープハーズ
(Kópház) 国境に向かい、後者がショプ
ロン国境に向かう。Kópház 方面に入ると、
かなり回り道になるので、ここには入ら
ないこと。

ゼンメルングでは三月一杯まで滑るこ
とができる。三月中旬になると昼過ぎか
ら雪が融け始めてコースが弛んで面白く
ないが、午前中はかなり締まっているの
で十分に楽しめる。(盛田 記)

【日本人会事務局より】

明けましておめでとうございます。
会員の皆様にとり、本年が幸多き年となりますようお祈り申し上げます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は台風、地震に津波と、本当天災の多い年となつてしまいました。が、当地に在留の皆様には、お元気に新年を迎えられたでしょうか？今年もハンガリー日本人会は、会員の皆様に少しでも楽しく当地での生活をエンジョイして頂ける様、お手伝いをさせて頂ければと思っております。

二〇〇四年度総会におき、右の理事が承認されましたので、ご報告申し上げます。

理事長（会長）

伊藤 和矢「丸紅兼フジフィルム
ハンガリー」

副理事長（商工部会幹事）

林 佳彦「サンヨーハンガリー」

副理事長（商工部会副幹事）

森田 喜信「NYKロジステイク」

総合理事

（日本国大使館公使）

日本人補習校担当理事

谷中 政則「アルパイン」

レジャー担当理事

鈴木 達哉「清水ハンガリー」

スポーツ担当理事

伊藤 幸広「竹中ハンガリー支店」

ドナウ通信担当理事

盛田 常夫「立山研究所」

二〇〇四年度は五月のソフトボール大会に始まり・・・とご報告したいところですが、残念ながら雨天途中止となつてしまった大会を初めに、ゲーム大会、日本人医師による巡回健康相談、補習校共催の大運動会、そして今度こそと皆様の意気込みの下秋のソフトボール大会、十二月の

年末総会・懇親会と行事を行つてまいりました。それぞれ多くの方のご参加をいただきました事、御礼申し上げます。年末総会・懇親会は例年に比べ少々参加者が少なく、残念ではありましたが、金管五重奏によるミニコンサートや新福引大会など、ご参加くださった皆様にはお楽しみいただけたのではと思っております。また、各行事におきまして、多くの方のご協力を頂きました事、心より御礼申し上げます。

本年度は、いよいよ日本人学校がスタートする見込み。ただ、現在補習校で仲良くしている子供達が、必ずしも皆、日本人学校でまた会えるとは限らないのではと危惧しています。そのような中で、日本人会の活動を通して、コミュニケーションを図っていけるよう、企画を立てて行きたいと思っております。皆様のご意見ご希望など、お寄せください。

（事務局 酒井）



	January						February				March				
M	3	10	17	24	31		7	14	21	28	7	14	21	28	
T	4	11	18	25			1	8	15	22	1	8	15	22	29
W	5	12	19	26			2	9	16	23	2	9	16	23	30
T	6	13	20	27			3	10	17	24	3	10	17	24	31
F	7	14	21	28			4	11	18	25	4	11	18	25	
S	1	8	15	22	29		5	12	19	26	5	12	19	26	
S	2	9	16	23	30		6	13	20	27	6	13	20	27	